



年 組 名前

道新ワークシート

気候変動で道内産品変容

減ジャガイモ・小麦・サケ **増**コメ・リンゴ

将来予想される気候変動に伴い、道内ではジャガイモや小麦の収穫量が減り、サケやスルメイカの水揚げも少なくなる。道は、地球温暖化や頻発する大雨の影響で基幹産業の1次産業や生態系などに起こりうる予測をまとめた。食料基地北海道から全国の食卓に与える影響は大きそうだ。

気候変動による影響の緩和と適応を目的に道は「気候変動適応方針」を策定。その中で、国の審議会や道立総合研究機構などの科学的知見を参考に影響を予測した。

適応方針によると、21世紀末の道内の平均気温は20世紀末に比べ3度程度上昇。年間の雨量は10%増え、1日に100ミリ以上降る頻度も多くなる。

2030年代を予測した農業では、ジャガイモは日射量の減少に伴い収量が現

21世紀末の気候 (20世紀末比)	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温 約3度上昇 年間雨量 約10%増加
農作物	<ul style="list-style-type: none"> ジャガイモや秋まき小麦の収量減。豆類も病虫害リスクが上がり、品質低下 コメの収量は増えるか現在並みで食味アップ。果樹の栽培適地は拡大
魚類	<ul style="list-style-type: none"> シロザケのオホーツク海への回遊ルートが消失する可能性。スルメイカは分布密度が低下 ブリが日本海全域に分布。マイワシの餌場がさらに北方へ
主な対策	<ul style="list-style-type: none"> 品種改良や農地の排水強化 魚類の分布に対応した漁場整備

道内の気候変動の影響予測と対策のポイント

道が影響予測

在に比べ15%減る。秋まき小麦は最大18%減り、大雨で倒伏や病気のリスクが高まる。テンサイは1畝あたり6ト増えるが根中の糖分は1%低下。小豆は上川と空知で減収、道南と道央の一部で品質が悪化する。漁業は海水温上昇などで、シロザケは2050年までにオホーツク海への回遊ルートが消失する可能性がある。スルメイカは2050年に本州北部沿岸で、2100年に北海道沿岸で分布密度が低い海域が拡大。

大。サンマは餌のプランクトン減で重量が10%ほど減る。

一方、収量が増える産品も。2030年代は冷害が減り、コメの収量は現在並みかやや増え、食味も良くなる。飼料用トウモロコシは最大14%増加。リンゴなど果樹栽培の適地も広がる。ブリは2100年に北海道を含む日本海全域に分布するようになり、マイワシも餌場を北方へ移す。

対策として、品種改良や栽培技術の開発の推進、海洋生物の分布に対応した漁場の整備などを記したが、具体的な取り組みは今後の検討課題となる。

道によると、昨年の全道の漁獲量(速報値)はスルメイカが1万6千トと過去5年間の平均と比べ68%減少。サケは同36%減の6万5千トと不漁が続く。

気候変動に詳しい北大大学院の藤井賢彦准教授(環境科学)は「道内は高温多雨になり、土壌や海水の性質も変わる。気候変動は避けられないとの視点で生産者は対策を急ぎ、消費者も変容する食文化への適応が必要だ」と話す。

(小林史明)

2019年2月3日朝刊1面(記事は再編集しています)

- 21世紀末の道内の気温や雨量は、20世紀末と比べてどのように変化すると予測されていますか。
- 今後、収量が減少したり、品質が低下すると予測されている農作物、水産物にはどのようなものがありますか。